

●平成23年度事業実施報告（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

平成23年度の協会運営は、平成23年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、会長・副会長のもと理事会の執行機関として8つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、総経費も予算内で終了しました。

A. 公益事業

1. 日本写真協会賞の平成23年表彰及び平成24年選考 【表彰委員会】

○平成23年対外発表及び表彰式、展示会の実施

- ・我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人、団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から昨年2月21日に各賞の受賞者を選定した平成23年日本写真協会賞を、4月14日にカメラ記者クラブで対外正式発表しました。又、関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関には、ニュースリリースを配布して広く写真愛好家に告知するべく広報活動にも注力しました。
- その後、表彰式を、6月1日(水) 午後5時より三田の笹川記念会館で開催し、引続き同館レストランで受賞者祝賀会パーティーを東京写真月間レセプションと兼ねて開催し190名の方々に参加いただきました。
- ・受賞作品展は六本木の富士フィルムフォトサロン東京で5月27日～6月2日に開催し、六本木という場所柄もあり、会員や写真愛好家以外にも多くの方々に受賞者の受賞内容を鑑賞いただきました。

○平成23年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆国際賞：クリス・ピヒラー

1989年に出版社ナツラエリ・プレスをドイツに設立、その後アメリカに拠点を移して精力的に多くの日本人写真家の本を発行し、日本の写真家の存在を世界に知らしめた功績に対して

☆功労賞：木村恵一

写真専門誌のカメラテストレポーターとして33年10ヶ月の長期間連載を続け、その鋭い指摘により日本のカメラ技術開発に大いに貢献した。また39年に亘る写真の大学教育指導を通じ多くの人材を世に送り出した。それらの長年に亘る活動に対して

☆功労賞：笹本恒子

日本の女性報道写真家の草分けとして戦後史をヒューマニズムあふれる真摯な立場でエネルギッシュに記録してきた、その長年に亘る写真活動に対して

☆功労賞：福原義春

東京都写真美術館館長を2000年から現在まで務め、芸術と経営というむずかしい問題を見事に両立させ現在の東京都写真美術館の姿を確立した。また企業メセナ協議会会長兼理事長など多数の公職を務め、長年に亘り文化芸術活動への企業支援に取り組んだ功績に対して

☆作家賞：川田喜久治

長年に亘り独自の歴史観・世界観を示す作家性の強い作品を発表し続け、斬新なイメージと新しい写真表現を世に問い、日本の写真文化に大きな影響を与えた功績に対して

☆作家賞：森村泰昌

集大成展「なにものかへのレクイエムー戦場の頂上の芸術」展をはじめとする、写真の分野に留まらぬ多彩な才能を駆使した現代日本美術を代表する作家活動に対して

☆作家賞：ハービー・山口

デビュー以来一貫して変わらない瑞々しい感性と優しい眼差しで捉えた、音楽家や俳優、市井の人々の姿は見る者の心に希望を与え、幸せにする。その長年のヒューマニティあふれる作家活動に対して

☆学芸賞：倉石信乃

豊富な知識を駆使し、スナップショットの歴史と、写真家たちの試みを力強い論理と流麗な筆致で迫った著書『スナップショット 写真の輝き』に対して

☆新人賞：大和田良

強靱な美意識と卓越した映像センスに基づき、日々の出来事を捉えたスナップショットからコンピュータ加工した造形的な作品やコンセプチュアル作品に取り組む、その多彩で意欲的な活動に対し

☆新人賞：村越としや

『あめふり』、『浮雲』、『雪を見ていた』他、モノクロームの特性を生かし、日本独特の風景と空気感を見事に表現した、独自のまなざしと一連の制作活動に対して

○平成24年受賞者の選考

平成24年日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、2月17日（金）、専門家7名の選考委員による「選考会」を開催し、国際賞1名、功労賞4名、作家賞3名、学芸賞1名、新人賞2名の受賞者を決定し、3月22日開催の理事会に報告し、年度の改まった平成24年4月16日に対外発表の予定。

○選考委員（敬称略、五十音順）

梅津 禎三（フォトディレクター）
楠本 亜紀（評論家／キュレーター）
小林 のりお（写真家）
齋藤 康一（写真家）
土田 ヒロミ（写真家）
早坂 元興（元アサヒカメラ編集長）
原 直久（日本写真芸術学会会長）

○平成24年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆国際賞：山岸享子

多年にわたり日本の写真を海外に発信するとともに、海外の同時代の写真を日本に紹介し、日本の写真文化の発展に大きな貢献を果してきた功績に対して

☆功労賞：熊切圭介

フリーランスの写真家として『週刊現代』などの雑誌・グラフ誌ほかジャーナリズムの分野で活躍するとともに、写真愛好家への指導や学校教育を通して写真界へ多大な貢献をしてきた、その功績に対して

☆功労賞：故・多木浩二

繊細かつ強靱で探究心に満ちた長年の批評活動により、写真及び写真に深く依拠する現代社会を思索する上での指針を示し続けてきた功績に対して

☆功労賞：福島辰夫

『福島辰夫写真評論集』で集大成された多角的な評論の数々や展覧会のオルガナイザー、ディレクターなど、長年にわたる幅広い活動により日本の現代写真に大きな道すじを引いた功績に対して

☆功労賞：村井 修

建築・彫刻・街並みを対象に制作活動を行い、半世紀を越える長きにわたって建築写真の第一人者として活躍するとともに、大学で後進の指導にあたるなど写真文化の向上に大きく寄与した功績に対して

☆作家賞：石川 梵

東日本大震災の光景をいち早く纏め上げた最近作『THE DAYS AFTER 東日本大震災の記憶』をはじめ、地球の歴史と民の祈りをテーマに骨太のドキュメンタリー作品を制作し、常に写真の力強さを示し続けてきた活動に対して

☆作家賞：高梨 豊

最近作『IN』をはじめ、旺盛な創作力で変貌していく都市をテーマにスナップショットを制作し続け、同時代人に大きな影響を与えている。写真家として進化し続ける長年の作家活動に対して

☆作家賞：ホンマタカシ

「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」展では写真の歴史を柔軟に咀嚼（そしゃく）しながら、「今日の写真」のあり方を、より開かれた文脈で見る者に問いかけた。写真の多重性を確認し続ける意欲的な作家活動に対して

☆学芸賞：岡塚章子

「140年前の江戸城を撮った男—横山松三郎」展(江戸東京博物館)をはじめとする数多くの展覧会の企画立案、作品収集、図録編集・執筆などに携わり、独自の視点による写真へのアプローチを示したキュレーション活動に対して

☆新人賞：公文健太郎

『ゴマの洋品店—ネパール・バネパの街から』ほか、明快なテーマの立て方と撮り口でネパールやブラジルなどの撮影を続け、見る者を納得させ、感銘を与えるルポルタージュ作品を制作する、その真摯な活動に対して

☆新人賞：斉藤麻子

日本各地に点在する地層の露出(露頭)を丹念に調査しつつ中・大判カメラの精緻な描写力によって表現し、その周縁を形成する人間の営みまで写し込んで現代社会に対する批評性を内包させた作品「Exposures」や「Field Note」に対して

2. 「東京写真月間2011」の開催と「大阪写真月間2011」への協賛 【写真月間委員会】

今年で創設16年目を迎えた「東京写真月間2011」は、当協会及び東京都写真美術館共催、外務省、環境省、文化庁、東京都、インドネシア大使館の後援、25の企業・団体の協賛、ガルーダー・インドネシア航空、ビジットインドネシアツーリズムオフィス、YUKI TORIIの特別協賛、その他多くの協力・特別協力を頂き、5月19日から約5週間にわたって開催し、延べ入場者数60,000人を数え、6月28日好評のうちに終了しました。また地方巡回展には、北海道東川町、大阪府、福島県、長野県池田町に、新たに高知県での巡回展示開催いたしました。

○国内展「いきものランド」～生物多様性と共に～

国内企画展は、地球上に、小さな生物、大きな動物など、植物を含め多種多様な生物が共生し暮らしています。その姿を様々な視点から「いきものランド」～生物多様性と共に～と題して、都内4会場で写真展を開催しました。

・「水辺の時間」 内山りゅう コニカミノルタプラザ 5月19日～5月30日

※5月21日(土)14:00～15:00 内山りゅう氏によるスライドトーク開催

水田や川に棲む生物を捕らえた写真は、清らかな水や川が育んできた命、豊かな水がもたらす多くの恵みに思いをはせる作品で、貴重な大山椒魚の生態も含め淡水に生きる小さな生き物たちを新たな視線で紹介しました。

・「ハヤブサ～空に生きる猛禽～」 関根 学 ペンタックスフォーラム 5月25日～6月6日

ハヤブサは鷲鷹の仲間です。主に海岸線の断崖や岩壁などに一年を通して暮らしていて、実際にその姿や生態を目にする機会は少ないです。特に3.11に発生した東日本大震災により、海岸線は津波により深刻なダメージを受けました。住環境の不備に苛まれながらも、新たな命を宿し再繁殖しようとするハヤブサたちの健気な姿と被害者への復興へ向けて懸命に尽力している姿と重ね、「いきもの」を展示しました。

田淵行男記念館の企画展として1月26日～2月26日巡回した。

・「となりのツキノワグマ」 宮崎 学 ニコンサロン銀座 5月25日～6月7日

※6月2日(木)18:30～20:00 宮崎学氏による公開トーク開催

最近話題に上るツキノワグマ、一歩山には入ればいつ遭遇してもおかしくない状況といわれています。人間社会のすぐ近くに生息する知られざるツキノワグマの実態を作家自らの手作り機材で撮影。ツキノワグマたちのユーモラスな姿も含め紹介しました。

・「うみうし」 今本淳 オリジナルギャラリー東京 6月2日～6月8日

貝の仲間から巻き貝から進化した海辺の生き物「うみうし」、数ミリから数センチしかないその小さな体を宝石のように美しく着飾っています。その美しい姿を通して生命の不思議さを紹介しました。

○国際展「アジアの写真家たち2011インドネシア」

8回目を迎えた「アジアの写真家たち」シリーズは、16名のインドネシアの写真家による写真展を5会場で開催しました。夫々が個性的でインドネシアの写真界の本日の姿を反映しています。観光地の景観を絵画的に表現した写真から、ニューギニアに住む原住民の生活の様子、モダンアートまでインドネシアの多様性を表現しました。インドネシア航空よりご協賛いただき、5名の写真家〔ユニアドヒ・アグング氏、ウィモ・アンバラ・バヤン氏、アキク・AW氏、アグング・ヌグロホ・ウィドヒ氏、アラディ・ヌル・リザル氏〕が

来日。プレイスMとでセミナー開催、国際機関・日本アセアンセンターでインドネシアツーリズムとの共催で写真家によるセミナーを開催しました。

- ・「Indonesia Nowadays -Section I」 リコーフォトギャラリー RING CUBE 5月25日～6月5日
- ・「Indonesia Nowadays -Section II」 オープンギャラリー(キャノンSタワー) 5月31日～6月20日
- ・「Indonesia Nowadays -Section III」 Place M 5月30日～6月5日 M2gallery 5月31日～6月9日
- ・「Indonesia Nowadays -Section IV」 日本アセアンセンター・アセアンホール 5月31日～6月16日

○「写真の日・記念写真展2011」

応募点数 2370 点の応募があり、優秀作品の質が年々向上していることは明らかであり喜ばしい結果となりました。前川貴行・ハービー・山口氏の厳正審査により、外務大臣賞以下入賞作品 322 点を選出し、6月16日～6月19日に入賞作品展を、6月18日には表彰式を、新宿パークタワーで開催しました。

東京展終了後は、大阪市、北海道東川町、福島市、長野県池田町と、新たに四国・高知県立歴史民俗資料館での巡回展を実施し、首都圏以外への写真文化の拡がりに貢献しました。

○「1000人の写真展《わたしのこの一枚》」

6月11日～6月15日、新宿パークタワーで開催しました。グループ展も年々増加し、アマチュア写真愛好家の作品発表の場としての位置づけが固まってきました。また、震災の影響で福島県南相馬市から避難を受け入れたボランティアグループ「片品むらんでいあ」とPSJ会員が中心となって子供たちに「写ルンです」をプレゼントし、家族・友達を撮った作品を48枚展示し、期間中に貸し切りバスで作品展を拝見しに来ました。引き続き、「48枚の小さな村、片品村で起こったこと写真展」は、群馬県庁で8月22日～24日まで開催しNHKや新聞で大きくとりあげられました。

○「見つけた！撮った！ワンダーランド」

昨年に引き続き日比谷公園内の「みどりのiプラザ/ギャラリー1」で「日比谷でいきものみつけ」展と題して子供たちに一眼レフカメラを渡して日比谷での生き物・風景など撮影したもののプリントしたものを展示しました。

- ・「こどもの目線」展

読売新聞写真教室参加児童の傑作700点を展示しました。初日のキックオフ

イベントには150人の子供たちが集まり、自分の展示作品をプリントしたTシャツを着て日比谷公園内の生き物を夢中で撮影しました。

- ・「こどもと読書」フォトコンテスト入賞作品展は、読書推進を目的に売上を伸ばしているカメラ雑誌と合同でフォトコンテストを実施し入賞作品展を実施しました。

○日本写真協会賞受賞作品展

日本写真協会賞受賞作品展は5月27日～6月2日、東京六本木の富士フィルムフォトサロンで開催しました。新人賞、作家賞の写真作品の点数を一堂に展示し好評を博しました。

○レセプション

6月1日(火) 午後6時30分より三田の笹川記念会館レストランで、日本写真協会賞受賞者祝賀会と兼ねて、東京写真月間レセプションを開催し190名の方々に参加いただきました。

○図録の発行

2011年に実施した「東京写真月間2011」を総括した図録を作成して、ご協力いただいた関係機関に配布すると共に関係各国大使館や図書館、美術館、ギャラリー、行政等々の公共機関にも無料提供しました。また、「写真の日 記念写真展」入賞者等購入を希望する写真愛好家には一冊2,000円で頒布しました。

最後に「東京写真月間2011」の開催にあたり、外務省、環境省、文化庁、東京都のご後援各企業、団体からのご協賛、ご協力をいただきまことにありがとうございました。また運営にあたり各業務に携わっていただいた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

○「大阪写真月間2011」への協賛

大阪の写真文化の向上を目指す「大阪写真月間」は今年で10年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しましたが、その趣旨に賛同し協賛金45万円を協賛して応援しました。

- ①「小学生のための写真講座」 5月8日 ビジュアルアーツ専門学校
参加人数：14家族29名 一眼レフでモノクロフィルムフィルム現像プリント。
- ② 10周年特別企画展「大阪」－写真家によって生きられた街
5月19日～5月25日 ニコンサロン大阪
井上青龍「写真集『釜ヶ崎』1985年」、妹尾豊孝「大阪環状線海まわり1993年」
百々俊二「写真集『新世界・むかしも今も』1986年「大阪」2012年」
森山大道「写真集『大阪+』2007年」
- ③「写真家150人の一坪展」 5月26日～6月1日
大阪ニコンサロン、キヤノンギャラリー梅田、富士フィルムフォトサロン大阪、
ビジュアルアーツギャラリー、オリンパスギャラリー大阪
- ④「大阪写真月間ハイスクールフォトアワード」
6月9日～6月15日 ニコンサロンbis大阪 13校69校参加
- ⑤1000人の写真展「わたしのこの一枚」 6月8日～13日 イロリ村 [89] 画廊
- ⑥10周年記念シンポジウム「大阪」－写真家によって生きられた街－
6月12日 講師：飯沢耕太郎氏、森山大道氏、百々俊二氏、妹尾豊孝氏

3. 国際交流活動 【国際交流委員会】・【写真月間委員会】

- ①国際展「アジアの写真家たち2011 インドネシア」
- ②平成23年2月にセルビア・ベオグラードで展示した「日本写真協会賞新人賞受賞作品展」
(北野謙氏、吉村和敏氏、石川直樹氏、前川貴行氏、屋代敏博氏、小川康博氏、佐藤信太郎氏)を引き続き同国のノヴィサドにて平成23年3月21日～4月21日に開催し好評を博しました。その後「日独交流150周年」認定事業の一つとしてドイツ・ベルリンで9月9日～10月28日に開催し、これにあわせ、ケルンとベルリンの二ヶ所で写真評論家飯沢耕太郎氏の講演会「日本現代写真の一断面」も開催し、日本の現代写真界への理解の深化を図りました。
また、ドイツ展終了後、続いてロシア・モスクワにて平成24年1月25日～2月5日に開催、オープニングレセプションには出展作家の中から小川康博氏も出席したほか、会期中に2,500人の観客が押し寄せ、大盛況でした。3月11日～4月8日には同国オムスクも巡回しました。
- ③講演会の開催
6月2日14時～、JCIIビル603号室にて、2011年日本写真協会賞国際賞受賞者のクリス・ピヒラー氏をお迎えし、講演会「世界に発信する日本の写真カー日本人写真家の写真集を出版してー」を開催しました。約50名が参加し、出版社ナツラエリ・プレスで活発に日本人写真家の写真集を発行している氏の活動、日本の写真観について聞き入っていました。内容は会報8月号で紹介しました。
- ④外国人写真家との交流
8月20日にスペイン人写真家カルロス・エステラスティコ氏が当協会を表敬訪問しました。氏の活動について、また日本とスペインの写真文化交流の可能性について討議しました。
- ⑤23年度海外派遣研修生希望者の文化庁への推薦
11月に応募があった23年度海外派遣研修生希望者5名を文化庁に推薦いたしました。その結果、全員が一次審査は通過したものの、残念ながら二次審査を通過できず、23年度は当協会推薦の海外派遣写真研修生及び海外からの招聘研修生の該当者はありませんでした。

4. 写真・映像教育の推進 【写真・映像教育推進委員会】

- ・写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを目的に写真体験教室を実施してすでに満6年を迎え、108箇所、5,215人が参加しました。
- ・本年度も、従来からの銀塩写真教室に加え、デジタル写真教室のプログラムの更なる充実を図り25件中10件のデジタル写真教室を実施しました。
デジタル写真教室の基本的なプログラムは、コンパクトカメラによるテレ・ワイドとマクロ撮影及び自分で撮影した写真の選定と撮影意図の発表ですが、子どもたちは自由に色々な被写体を追いかけて、大伸ばしの四切プリントに感動し、撮影意図についても的確な意見発表をする子どもが多く、楽しい体験ができた大変好評でした。
- ・当年度は、フィルムカメラを使用した「モノクロ写真体験教室」を1件で124名、「手作りピンホールカメラ写真体験教室」を14件で735名、「デジタル写真体験教室」を10件で350名の計25件開催し、1,209名が参加しました。
- ・写真教室の開催場所（主催者）は小学校（11校）、公民館やコミュニティーセンターなど（6カ所）、美術館・博物館・文芸館など（7カ所）とこれまで以上に多岐にわたってきました。
写真・映像教育推進活動が学校関係者にも広く知られるようになり、小学校では、課外活動・放課後学級だけでなく、理科、図工や総合学習の正規授業として行われる事例も増えており、リピート実施を要請する主催者も増えています。いまでは東京、神奈川など首都圏の教育支援事業として認知度を高め、「第5回東京都教育支援コーディネーター・フォーラム」では、札幌から沖縄までの教育支援関係者などが集まるなど写真映像教育への関心は大きな広がりを見せています。

5. 日本写真年報の発行 【出版広報委員会】

1958年（昭和33年）に創刊の、「日本写真年報」は2011年版・第55巻を6月初旬に発行しました。公益社団法人化対策の一環として、2011年版からは「日本写真年報」の編集発行事業を《不特定多数の利益の増進》に資する公益事業とすべく、会員向けである会員名簿や定款・役員を年報から分離独立させて発行しました。「日本写真年報」は、年間の写真活動が長年にわたって継続集約された国内唯一の資料となっており、写真関係者はもとより、諸官庁、報道機関、教育機関、美術館、図書館など広く各方面より好評を得ています。

B. 共益事業

1. 会報の発行 【出版広報委員会】

23年度は、季刊として年4回、5月・8月・11月・2月に445号～448号を発行し、各時点における協会の活動や今後の計画、写真文化 情報などを紹介しました。

・主要掲載記事

夏号：日本写真協会賞受賞者決定、「東京写真月間2011」開幕、福原義春氏インタビュー記事

秋号：江成常夫特集記事「あの戦争を封印してはならない」、^{ロン}榮榮と^{インリ}映里の作品について「二人で一つの写真家人生」、「写真月間2011」を終えてクリス・ピヒラー氏講演会「世界に発信する日本の写真力」の要約

冬号：「90歳を迎えた現役写真家 芳賀日出男さん」、「電子書籍と写真集」、ドイツとの写真交流実現

春号：日本写真協会60周年記念特集記事「日本写真協会の黎明」、笹本恒子さんインタビュー「いつまでも時代の証言者であり続けたい」、「被災写真が語るもの 写真家・平間至さんに聞く」、「わくわくおどろき！写真体験教室」

2. 日本写真協会賞受賞祝賀会 兼 東京写真月間 レセプションの開催【総務委員会】・【写真月間委員会】

6月1日「写真の日」に笹川記念会館において、日本写真協会賞表彰式後、受賞祝賀会と東京写真月間レセプションとを共同開催し、会員の親睦を図る意味も含め「写真の日」事業の一環として開催した。なお、叙勲・褒章受章祝賀会は春の叙勲等の発表が東日本大震災の影響で遅れたため開催を見送りました。

C. 法人運営事業

1. 公益社団法人に移行 【総務委員会】

内閣総理大臣より公益認定を受け、平成23年4月1日に登記を行ない「公益社団法人日本写真協会」に移行した。平成23年度第1回通常理事会において、新法人法に基づき、稟議規程の新設及び諸規定（入退会規程・会費規定・理事の職務権限規程・委員会設置運営規程）の一部修正を決議しました。

2. 理事副会長3名、新理事2名選出 【総務委員会】

第1回通常理事会において、理事の中から、新公益法人としてのガバナンスの強化の観点より、久保走一氏、武本秀治氏、田沼武能氏を副会長に選出。平成23年定時社員総会の終了を以って辞任された阿部理事、境理事に代わり、両理事に期待されていた協会運営に必要な役割を代わって果たせる新理事として関口伸永氏、上田裕一氏が社員総会で承認議決され就任しました。

3. 東日本大震災義援金を寄付 【総務委員会】

東日本大震災の被災地支援のため、会員及び協会の事業開催地にて募金活動を実施。義援金合計730,308円を「読売光と愛の事業団」に430,308円、東京工芸大学「被災した写真の洗浄・処理ボランティア」に300,000円を寄付しました。

4. コンプライアンス 【コンプライアンス委員会】 【総務委員会】

平成24年3月12日 コンプライアンス委員会開催(大平業務執行理事、井沢理事、松本理事)し、平成23年度は、当協会の問題となる事項はなかったことを確認。平成24年度は当協会内及び外に、コンプライアンスに関する問題に対しては情報連絡を密にすることとした。

5. 展覧会等の後援

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、平成23年度は以下の催事をバックアップしました。

No.	申請者	写真展名	会期・場所
1	株式会社プロメディア	PHOTONEXT 2011	6月21日～6月22日 東京ビッグサイト・西4ホール
2	写真家の国際交流をすすめる会	イタリア日本写真交流展	①「アッシジ」エリオ・チオル、「TO WHISPER」フランク・ディテュリ 6月15日～6月28日 イタリア文化会館 ②「エリオ・チオルに続く新世代写真家たち」展 6月14日～6月19日 アートスペースユメリア アルファ ③「エリオ・チオル新作展」エリオ・チオル 6月14日～6月25日 アートスペースユメリア ベータ ④「ネオ・リアリスモの時代」エリオ・チオル 6月16日～6月29日 フォトギャラリー「シリウス」 ⑤「フランク・ディテュリ展」フランク・ディテュリ 6月3日～6月22日 ギャラリー一睦
3	礼文町観光協会	2011 彩北航路フォトコンテスト	募集：5月1日～9月30日 催事場所：利礼航路
4	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら 2011	4月1日～平成24年3月31日 相模原市民ギャラリー他

No.	申請者	写真展名	会期・場所
5	朝日新聞社	世界報道写真展 2011	6月11日～8月7日 東京都写真美術館、8月9日～8月18日 大阪ハービスホール、9月21日～10月16日 京都・立命館大学国際平和ミュージアム、10月18日～11月3日 滋賀・立命館大学びわこくさつキャンパス、11月6日～11月20日 大分・立命館アジア太平洋大学
6	非営利活動ワールドドレ ン フォトプロ ジェクト	「平和にピント！世界の教え子 Focus on Peace Students In the World」	4月4日～4月26日 東京・快晴堂フォト サロン、6月10日～6月30日 京都・立命 館大学国際平和ミュージアム、7月5日～7 月24日 長崎・ナガサキピースミュージア ム、8月1日～8月15日 沖縄・ハエバル 文化センター、9月16日～9月25日 静 岡・富士・ロゼシアター、10月7日～1月 27日 愛知・トヨタ博物館
7	株式会社 飯田スタジ オ	月刊フリーペーパー・フォトコ ミュニティー『写真刊』	毎月発行
8	東川町写真の町実行委 員会	第27回東川町国際写真フェス ティバル	7月26日～9月5日 東川町町内一円
9	学校法人 日本放送協 会学園	第18回NHK学園「旅の写真展」	8月23日～9月4日 NHKふれあいホールギ ャラリー
10	一般社団法人カメラ映 像機器工業会	CP+ 2012 (Camera & Photo Imaging Show)	2012年2月9日～2月12日 パシフィコ横 浜
11	株シー・エム・エス	御苗場	10月20日～23日 大阪海岸通ギャラリー CASO Contemporary Art Space Osaka
12	沖縄県立博物館・美術 館	東松照明写真展「太陽へのラブ レター」	9月23日～11月20日 沖縄県立博物館・ 美術館 企画展示室1・2
13	「こっぼんー大使たち の視線」写真展実行委 員会	・「こっぼんー大使達の視線 2011」写真展 “Japan through Diplomats’ Eyes”	10月14日～10月20日 六本木ヒルズ ヒ ルズカフェ、11月20日～11月30日 名古 屋セントラルパークギャラリー、12月10 日～2012年1月17日 ひょうご国際プラ ザ 交流ギャラリー、2012年3月下旬 仙 台メディアテーク
14	学校法人 日本放送協 会学園	「第22回NHK学園生涯学習写真 展」	平成24年2月3日～2月9日 富士フィ ルムフォトサロン東京
15	フォトカルチャー倶楽 部	富士山プロジェクト	
16	フォトグループいぶき	「四季のいぶき」写真展	平成24年1月13日～1月19日 富士フィ ルムフォトサロン
17	株デイズジャパン	「第8回DAYS国際フォトジャー ナリズム大賞・写真展」	

以上